

(縁・円・援)

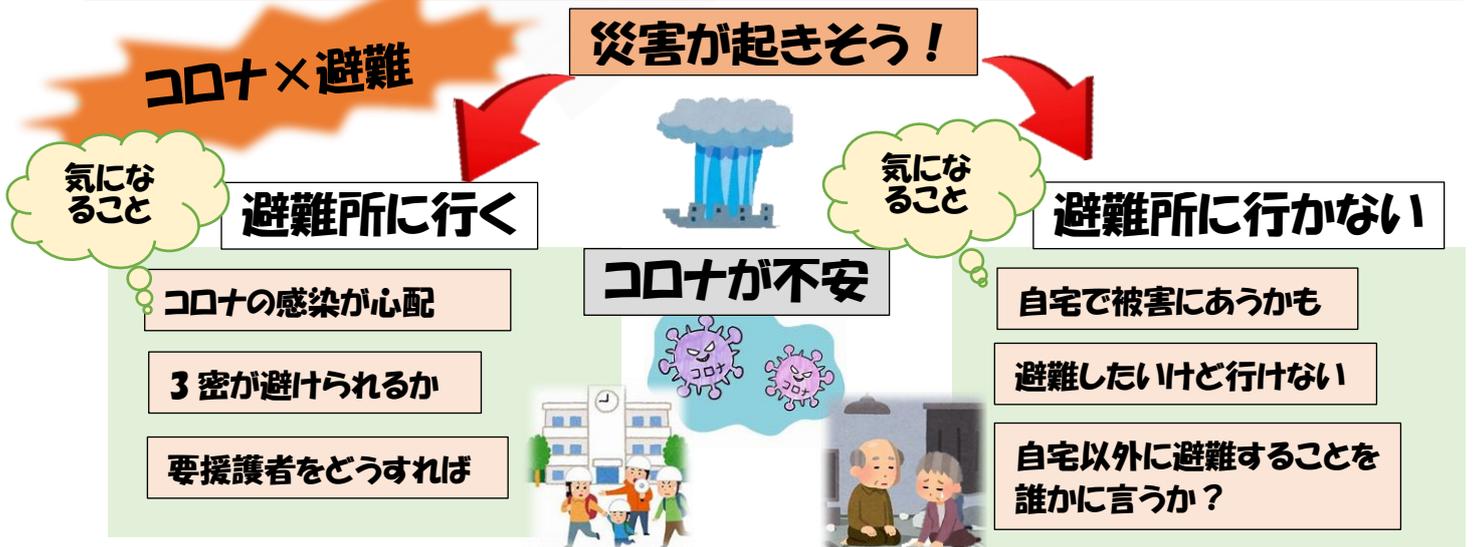


兵庫えんだよい

このニュースレターは、市町社協の生活支援コーディネーター、住民等が創意工夫しながら行われている生活支援、地域活動をお伝えするために発行いたします

～コロナにも災害にも負けない地域をめざして～

新型コロナウイルスの感染が、いっとき影を潜めたかのように見えてきましたが、8月に入り再び再燃してきました。さらに、地球温暖化等による気候変動で異常な暑さや局所的な水害がどこを襲うか想定ができなくなりました。コロナ禍と災害、備えるときは「今です」。今回は、コロナ禍でつながりがなくなりつつある中でも知恵と工夫で今まで以上のつながりや災害への備えになっている取り組みがありました。



避難所避難で考えること

- ① コロナ対策等の防災・避難計画を正確に立て直す。
- ② 避難所での感染症対策の注意点（三密回避・消毒・体調管理等）をどのようにすればよいか。
- ③ 要支援者の方の避難をどうすればよいか。
- ④ 受け入れ制限後の車中避難の注意点（熱中症・エコノミークラス症候群等）

在宅避難で考えること

- ① 「在宅避難者」のことを防災訓練で考えているか。「どこに逃げたか」を知らせる仕組みがあるか。（メール、ライン等の活用等）
- ② 災害後の在宅避難の支援を考えているか。（避難所運営は外部の支援者と協働し、「地域事情に強い」社協等の頑張りどころ）
- ③ 災害後の在宅避難している人の支援＋コロナ感染を考慮した支援方法

お知らせ

県社協では、各生活支援コーディネーターの活動や、悩みごとを知るために、各市町の訪問や、オンラインでの意見交換を計画しています。詳細な日程はおって連絡いたします。

【発行元】(令和2年9月9日発行)
〒651-0062 神戸市中央区坂口通2丁目1番1号
兵庫県社会福祉協議会 地域福祉部
TEL 078-242-4634 FAX 078-242-0297
E-Mail: chiiki-2@hyogo-wel.or.jp (担当: 山下・永坂)

「お連れ避難」でみんな助かる(三木市)

※「お連れ避難」とは三木市社協がネーミングされた「互いに声を掛け合い、連れだって避難する」という防災用語です。

三木市社協では、新型コロナウイルスの影響で今までのように開催できなくなったふれあいサロン活動を別の活動も取り入れながら住民同士で互いを気にかけてあうよう進めています。その際、「plus 防災」を意識して活動を展開しています。

マスクを作って訪問しよう

plus 防災・・・訪問先であるふれあいサロン参加対象者(災害時要援護者)宅や避難所、避難経路等を地図で情報共有しながら防災マップを作成しました。

詳しくはこちらを check!



集まることができない

マスクを作って訪問しよう

配る人の家を地図で共有

長雨や台風にも備えて、避難経路等も地図で確認

防災マップができた

いざという時に生かそう



工夫①
いざという時、どのお宅から避難支援に行くのか情報共有



ふれあいサロンで防災を考えよう

plus 防災・・・ワイワイガヤガヤのお茶のみ会が難しい時は、防災について学ぶ、考えるプログラムを取り入れています。

どこに逃げたか知らせよう

「お連れ避難」を推奨!

工夫②
日ごろからお連れサロンをしている



非常用持ち出し袋に追加

工夫③
非常用持ち出し袋にコロナ用品を足す

避難所は受け入れ人数の制限が



避難所に行く

工夫④
避難のタイミングや避難生活をイメージ



自宅・ほかに避難

工夫	これまでの考え方	三木流防災への取り組み	知恵が生まれた背景
①	マスクの配布をしながら訪問するだけで終わることが多い。	マスク配布宅を地図に印したものを防災時の声かけマップとしても使う。	マスクを配布する人は災害時に支援が必要で日ごろから見守りが必要な人が多い。
②	それぞれの判断で避難	お連れ避難(連れだって避難すること)を推奨	サロンの時は、互いに誘い合って(お連れサロン)来ることが多い。
③	避難所にある常設品や備蓄品、支援物資を使用	家庭の非常用持ち出し袋に(マスク・消毒液・体温計等)追加する。	あらたに考えるのではなく、いまあるものを見直すことが大切
④	避難してから福祉避難所等への移動を検討する。	いつ逃げるか、どこに避難するのか、誰を優先するのか話し合う。	コロナ禍での避難、福祉避難所への避難など、人数に制限があることが明らかになった。

あのまちこのまち見聞録

コロナを忘れてる!(淡路フランダースファーム)

庭先に置いてあったプランターに、まるで宝石のようなプチトマトが実っていました。自慢げにプチトマトの説明をしてくれる女性と生活支援コーディネーターは真夏の日差しに気が付かないほど話し込みます。800個のプランターに来年は何を植えようかと一層COと2層COのさらに続く会話。とうとう、コロナの話はできませんでした。先を見通す頼もしさを感じたひと時でした。

【編集後記】コロナと熱中症に襲われたような夏でした。これまで経験したことのないことが住民を不安にしています。しかし、社協として、専門職として、何を優先しなければならないか、再度、考えさせられた夏でした。

ここがポイント

コロナ禍でもつながりを切らない住民の活動は、気が付かないうちに見守りや災害時への取り組みになっています。お互いの小さな配慮と役割がバラバラになりそうな不安をつないでいるのではないのでしょうか。



寝てるところがわかる!?(加西市)

コロナの影響でサロンの開催等が中止になりご近所でラジオ体操をすることになりました。

一人暮らしの男性との会話

「〇〇さんが枕元まで迎えに来てくれるんだ」

「カギはどうしてるの?」

「カギは開けておく」

なるほど。きっと朝早く起きて、迎えに来てくれる人のためにカギを開けておくんだ…。